

川湯ばやし、町無形文化財に指定



教育長 岩原 勝行

弟子屈を代表する郷土芸能「川湯ばやし」は、福井県織田町(現:越前町)に伝わる県の重要無形文化財である「明神ばやし」を起源としております。

1971(昭和46)年、当時の川湯温泉観光協会の方々が、観光資源とするため、江戸時代初期から伝わる「明神ばやし」に注目。熱心な陳情活動により、その移出の承諾を得て、実際に織田町の保存会の方々に川湯に来ていただき、指導を仰ぎ、独自性を加え「川湯ばやし」となったものです。

現在、活動の中心となっているのは、地域住民と子どもたちです。保存会をはじめ、小学校・中学校単位で取り組んでおり、学校や町で行われる文化祭、各種イベントなどの際に披露されなど、町外へ川湯温泉の名を周知する活動の一助となっています。

これらの活動を鑑みて、弟子屈町として後世に残していくべき郷土芸能であり、町の文化財の一つとして指定を検討してまいりました。

川湯ばやしが50年以上の長きにわたり郷土芸能として地域文化の発展に寄与してきたこと、また、さらなる普及、振興を図るべく、町の無形文化財に指定するための調整を目的に、令和6年11月、福井県庁及び越前町を訪問しました。訪問には川湯ばやし保存会の代表の方々も参加し、例大祭で明神ばやしを奉納される劔神社に参拝するとともに、織田文化歴史館の見学、明神ばやし保存会の方々との意見交換、織田地区文化祭での明神ばやしの鑑賞など、視察と調整、交流を図ってまいりました。結果、明神ばやし保存会はもちろんのこと、県庁や越前町の方々からも、川湯ばやしの町文化財指定を大歓迎する旨のお言葉をいただき、また、今後の交流についても前向きな発言をいただいたところです。

令和7年2月17日に開催された町文化財専門委員会での協議、答申を受け、2月26日開催の令和7年第2回定例教育委員会で、町無形文化財に指定することが決定しました。

大自然と温泉を求めて、弟子屈町には毎年たくさんの観光客が訪れますが、観光客の安全祈願と大自然に対する感謝の意味を込め、太鼓が打ち続けられることを祈念します。

教育委員コラム

Column of the member of the board of education

No. 41

2025/4

発行／弟子屈町教育委員会
教育長 岩原 勝行
教育長職務代理者 金井 秀明
委員 菅原 誓之
委員 吉田 一徳
委員 宮田 昇子

川湯ばやしに文化財指定書交付

教育長 岩原 勝行

2月26日の教育委員会で正式決定した町無形文化財「川湯ばやし」に3月18日、指定書が交付されました。町文化財専門委員会の山口武司会長が臨席する中、私から川湯ばやし保存会の瀬川太一会長に指定書を手渡し、長年の悲願達成を喜び合いました。

町の文化財は、マリゴケ・仁多獅子舞・鑑別獅子舞に続き4件目の指定。50年以上の長きにわたり郷土の芸能として伝承・発展してきた「川湯ばやし」のますますのご活躍を祈念します。



救命救急講習

教育長職務代理者 金井 秀明



川湯消防署で上級救命救急講習会があり、リフレッシュ講習を受けてきました。令和5年、全国では764万件、およそ1分に15人が搬送され、弟子屈町は527件、17時間に1人搬送されたそうです。周辺町村より搬送者が多いようですが、観光客や美幌峠でのバイク事故など、町外者の救急搬送が約40%を占めるそうです。

実技講習では、頭では理解しているつもりでも、胸骨圧迫が早過ぎたり、気道確保がうまくいかなかったりと思いつ通りにいきません。練習でこれですから、もし実際の場面に遭遇したらと考えてしまいます。AEDの操作では最後のショックボタンを押せない事例もあり、最近では自動的に電気ショックを行う「オートショックAED」も普及しているそう。実際にAEDを使用するような場面に遭遇したくありませんが、救命救急講習は一度は受けておくことをお勧めします。

旅立ちの卒業式シーズン

教育委員 菅原 誓之



3月に入り、今年も卒業式のシーズンとなりました。早速1日には弟子屈高校において「第61回卒業証書授与式」が行われ、22名の3年生が卒業していききました。

当日は多くの来賓や父母、家族に見守られ、厳かな雰囲気の中、校長先生から一人一人に卒業証書が手渡されました。中でも印象に残ったのは、最後22番目の卒業生が第6,760号で、弟子屈高校が多くの卒業生を送り出した歴史を感じました。今後たくさんの生徒が入学されることを願っています。

弟子屈小学校吹奏楽少年団定期演奏会

教育委員 吉田 一徳

2月23日に弟子屈小学校吹奏楽少年団の定期演奏会が開催され、準備した椅子が足りなくなるほどたくさんの観客が演奏を楽しんでいました。

演奏会では、中高生や社会人との合同演奏など様々な企画がありましたが、特に北海道管楽器個人コンテストで金賞を獲得した小学生の演奏は、大人顔負けの音と技術で観客を魅了していました。

ちなみに私も、ホルンのエキストラとして何曲か一緒に演奏させてもらいました。しかし、この時ばかりは何曲吹いても疲れないう昔に戻りたいと思った自分がいたのです。



頑張れ弟高ソフトテニス部

教育委員 宮田 昇子

釧根支部高等学校インドアソフトテニス大会が3月20日、ウインドヒルクしろスーパーアリーナで開催されました。弟子屈高校のソフトテニス部員も参加し、日頃の練習の成果を發揮すべく奮闘。シード選手を相手に善戦し、会場を沸かせていました。

同校の部員は3人。そのうち2人が高校から競技を始めました。顧問の先生の熱心な指導と部員たちの努力により着実に力をつけていることが試合内容に見て取れ、毎回観戦が楽しみです。ただ、ソフトテニスはダブルスが基本のため、高体連に向けてもう1人部員が増えるといいなあとも思っています。



友人は、カンフーアクション映画で知られる中国の俳優の大ファン。いつか会いたいと広東語の勉強をしています。そのバイタリティーに驚かされるとともに、尊敬もしています。興味のあることには熱量を持って向き合い、学びにも繋げられるということ。本来、学びとはそういうものなのかもしれません。

今年も各校の卒業式に出席させていただきました。小さくなった制服からはみ出した長い手足に成長を感じ、卒業生の答辞や合唱、そして堪え切れずにこぼれた涙に、こちらの目頭も熱くなりました。たくさんの「初めて」に出逢い、興味の幅が広がり、豊かな学びの機会が得られる、そんな春を迎えられますように。

(宮田)

編集後記